

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	
年組	1年1組		教科書(発行所)	高等学校 歴史総合(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4 5 6 7	第1章 近代化と私たち	①歴史と私たち	○	○	○	<b>学習の目標</b>  社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
	第1節 18世紀のアジアの繁栄	②歴史の特質と資料	○	○	○	
	第2節 産業革命と市民革命	①18世紀の東アジアの政治と国際秩序	○	○	○	
		②18世紀の東アジアの経済と社会	○	○	○	
	第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	①国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易 (中間考査)	○	○	○	
		②農業社会から工業社会へー産業革命	○	○	○	
		③アメリカ独立革命	○	○	○	
7		④フランス革命	○	○	○	<b>授業の進め方</b>  ・地図や写真などを読みとる活動を通して、歴史が史料から成り立っていることに気づかせる。 ・19世紀後半から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。
		⑤イギリスに挑戦したナポレオン	○	○	○	
8・9	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	⑥大西洋をこえて広がった革命	○	○	○	<b>学習の方法</b>  ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。
9		⑦イギリスの繁栄 (期末考査)	○	○	○	
10	第5節 帝国主義の発展	②後発国による「上からの近代化」	○	○	○	<b>評価の観点</b>
11		③ロシアの近代化と南下政策	○	○	○	
12	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	④アメリカ合衆国の膨張	○	○	○	・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。
		①オスマン帝国の衰退と西アジア	○	○	○	
12	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	②南アジアと東南アジアの植民地化	○	○	○	<b>評価の方法</b>  出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する
		③東アジアの動揺	○	○	○	
1	第2節 経済危機と第二次世界大戦	④東アジアの情勢と改革	○	○	○	
		⑤明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序	○	○	○	
2		⑥日本の立憲国家への道のり	○	○	○	
		①帝国主義の時代	○	○	○	
3	第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成	②列強の世界政策	○	○	○	
		③日清戦争と中国分割	○	○	○	
3		④日露戦争とアジア	○	○	○	
		⑤日本の工業化と社会運動の高揚	○	○	○	
3		⑥日本の帝国主義と東アジア	○	○	○	
		⑦日本の帝国主義と東アジア (学年末考査)	○	○	○	
3		①第一次世界大戦	○	○	○	
		②第二次世界大戦の開始	○	○	○	
3		③第二次世界大戦の終結	○	○	○	
		④国際連合と国際経済体制	○	○	○	
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	
年組	1年1組		教科書(発行所)	わたしたちの地理総合(二宮書店)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1章 地図とGISの活用	1 球面上での生活①	○	○	○	<b>学習の目標</b>
	1節 球面上の世界	2 球面上での生活②	○	○	○	
5	2節 国家の領域と領土問題	1 国家の領域と海洋の役割	○	○	○	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
	3節 国内や国家間の結びつき	2 日本の位置と領土問題	○	○	○	
	4節 日常生活のさまざまな地図	1 国家をこえた結びつき (中間考査)	○	○	○	
6	2章 生活文化の多様性と国際理解	2 観光による結びつき	○	○	○	<b>授業の進め方</b>
	1節 自然環境と生活文化	1 身の回りにあるさまざまな地図	○	○	○	
7		2 地理情報システムのしくみと使い方	○	○	○	教科書を読み、ワークブックに内容をまとめ、問題演習を通じて知識の定着を図る。また、作図や資料から当該地域の特色や課題を読み取り、解決の方向性や将来の在り方を考える。
		1 地球上の地形のなりたち	○	○	○	
7	2節 産業の発展と文化	2 山地と平野	○	○	○	<b>学習の方法</b>
8・9		3 海岸部の生活	○	○	○	
9	3節 言語・宗教と生活文化	4 地球上の気候のなりたち	○	○	○	予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。ワークブックに書き込み理解を深め、問題演習を通じて知識の定着を図る。気候や地形、そこに住む人々の歴史や生活等に注目して現代社会における諸課題を捉えていく。
9	4節 グローバル化と文化	1 農業の地域性	○	○	○	
10	3章 地球的課題と協力	2 農業と生活文化	○	○	○	<b>評価の観点</b>
	1節 人口・食糧問題	3 工業の地域性	○	○	○	
11	2節 居住・都市問題	1 世界の言語	○	○	○	知識・技能 地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり、まとめたりしている。また、現代の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、知識を身に付けている。 諸問題に対する思考力・判断力・表現力 地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したり、国際社会の変化を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。 主題的に学習に取り組む態度 地理事象への関心と課題意識を高める。
	3節 資源・エネルギー問題	2 世界の宗教	○	○	○	
12		1~3 地域統合 EU	○	○	○	<b>評価の方法</b>
		4~6 グローバル化 アメリカ	○	○	○	
12	4節 地球環境問題	1 世界の人口問題	○	○	○	授業中の活動状況 課題の提出状況 小テストや定期考査の状況 資料の読解状況
	4章 生活圏の諸課題	2 人口増加 中国とインド	○	○	○	
1	1節 自然環境と防災	3 人口停滞 スウェーデンと日本	○	○	○	<b>評価の方法</b>
1		1 世界の居住・都市問題	○	○	○	
2	2節 持続可能な地域づくり	2 大都市 ロンドン・ニューヨーク	○	○	○	授業中の活動状況 課題の提出状況 小テストや定期考査の状況 資料の読解状況
		3 密集都市 メキシコシティ・ジャカルタ	○	○	○	
3		1 世界の資源・エネルギー	○	○	○	<b>評価の方法</b>
		2 エネルギー資源の生産・消費と課題	○	○	○	
		3 再生可能なエネルギーへの移行	○	○	○	<b>評価の方法</b>
		(期末考査)	○	○	○	
【備考】						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇高等学校

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	
年組	1年2・3組		教科書(発行所)	地理総合 世界に学び地域へつなぐ(二宮書店)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4 5 6 7	第1章 地図とGISの活用 1 球面上の世界 2 日本の位置と領域	1 位置の基準 2 時間の基準 1 視点を変えてみた日本の位置 2 国家とその領域 3 海に広がる日本の領域 4 日本の領域に関する問題	○	○	○	<b>学習の目標</b> 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
	3 国内や国家間の結びつき	1 国家間の結びつき 2 交通・通信による結びつき (中間考査)	○	○	○	
	4 暮らしのなかの地図とGIS	1 身の回りの地図を集める 2 地理院地図の活用 3 GISの仕組みと役割	○	○	○	
	第2章 地理的環境の特色	1 変動帯とプレート	○	○	○	
	1 地形と生活文化	2 河川がつくる地形と生活 3 海岸の地形と生活	○	○	○	
	2 気候の地域性	1 大気循環 2 気候の地域性	○	○	○	
			(期末考査)	○	○	
7 8・9 9 10 11 12	3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	3 ケッペンの気候区分 4 熱帯の自然環境と生活 5 乾燥帯の自然環境と生活 6 温帯の自然環境と生活 7 亜寒帯・寒帯の自然環境と生活 1 農業の発展と生活文化 2 工業の発展と生活文化 3 サービス業の発展と生活文化 1 宗教の分布と生活文化 2 言語の分布と生活文化 3 移民と難民 4 生活文化の多様性 1 自然環境と生活文化 2 経済成長と自然環境の変化による課題 1 多民族社会とASEANの統合 2 宗教にねざした生活文化と産業 1 経済発展の礎 2 産業・交通の発達による一体化 3 統合の背景と言語・宗教の多様性 4 経済統合と政治統合 (期末考査)	○	○	○	教科書、資料集を読み込み、演習ノートにまとめ、演習問題を通じて知識の定着を図る。 また、作図や資料から当該地域の特色や課題を読み取り、解決の方向性や将来の在り方を考える。
	第3章 世界各地の生活文化		○	○	○	<b>学習の方法</b> 予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。資料集や参考書を読み理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。 気候や地形、そこに住む人々の歴史や生活等に注目して現代社会における諸課題を捉えてほしい。
	1 多様な気候と生活文化 2 宗教の多様性と生活文化		○	○	○	
	3 経済統合による生活文化の変化		○	○	○	<b>評価の観点</b> ・知識・技能 地理の事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ・思考・判断・表現 地理に関わる事象の意味、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、国土に対する愛情、各国の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚を深める。
			○	○	○	
12 1 2 3	第4章 地球的課題と国際協力 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口・食料問題	1 環境問題と持続可能な社会 2 国境を越える汚染 3 森林減少・砂漠化とその対策 4 気候変動とその対策 1 鉱産・エネルギー資源と課題 2 リサイクル・再生可能エネルギー 1 人口と人口問題 2 世界各地の人口問題 3 2つの食料問題 4 食料問題の背景と解決策	○	○	○	<b>評価の方法</b> ・定期考査の得点 ・小テストの得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況
	第5章 生活圏の諸課題	1 世界からみた日本の地形の特色 2 世界からみた日本の気候の特色 3 風水害と防災 4 火山の噴火と防災 5 地震・津波と防災 6 都市型災害と防災 (学年末考査)	○	○	○	
	1 日本の自然環境と防災		○	○	○	
	2 生活圏の諸課題と地域調査	1 主題図からみた日本の特徴と課題 2 事例地域の選定～事前調査 3 現地調査～調査地図の作成	○	○	○	
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	
年組	2年2組		教科書(発行所)	高等学校 歴史総合(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1部 歴史の扉	①歴史と私たち	○		○	<b>学習の目標</b>
	第2部 近現代の世界と日本	②歴史の特質と資料	○		○	
5	第1章 近代化と私たち	①18世紀の東アジアの政治と国際秩序	○	○		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	第1節 18世紀のアジアの繁栄	②18世紀の東アジアの経済と社会	○	○		
	第2節 産業革命と市民革命	①国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易	○		○	
		②農業社会から工業社会へー産業革命	○	○		
		③アメリカ独立革命	○		○	
6	第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	④フランス革命	○		○	
		⑤イギリスに挑戦したナポレオン	○	○	○	
		⑥大西洋をこえて広がった革命	○	○		
7		③ロシアの近代化と南下政策	○	○		<b>授業の進め方</b>
					・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。 ・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。	
7	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	④アメリカ合衆国の膨張	○		○	<b>学習の方法</b>
8・9	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	①オスマン帝国の衰退と西アジア	○	○		
		②南アジアと東南アジアの植民地化	○	○		
9		③東アジアの動揺	○		○	
10	第5節 帝国主義の発展	④東アジアの情勢と改革	○	○		
		⑤明治初期日本の外交と東アジアの国際秩序	○	○		
		⑥日本の立憲国家への道のり	○	○		
11	第5節 帝国主義の発展	①帝国主義の時代	○		○	
		②列強の世界政策	○	○		
		③日清戦争と中国分割	○		○	
12	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	④日露戦争とアジア	○	○		
		⑤日本の工業化と社会運動の高揚	○	○		
		⑥日本の帝国主義と東アジア	○	○		
12	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	①第一次世界大戦	○	○		<b>評価の観点</b>
		②ロシア革命とソ連の成立	○	○		
12		③ヴェルサイユ=ワシントン体制	○		○	・知識・技能 世界と日本を相互的な視野から捉え、現代の諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する情報を調べまとめる技能を身に付けている。 ・思考力・判断力・表現力 歴史の変化に関わる事象の意味や意義を、概念を活用して多面的、多角的に考察したり、構想したことを効果的に説明する力を身に付けている。 ・主体的に学習に取り組む態度 より良い社会の実現のため課題を主体的に解決しようとする態度を身に付けている。
		④アジア諸国の独立運動	○		○	
1		⑤東アジアの民族運動と日本	○	○		
		⑥アメリカの大衆社会	○	○		
2	第2節 経済危機と第二次世界大戦	⑦大正デモクラシーと日本社会の変化	○	○		
		①世界恐慌	○	○		
		②ファシズム・軍部の台頭	○		○	
3		③ファシズムの対外侵略と国際秩序の変化	○	○		
		④日中戦争の開始と戦時体制下の日本	○	○		
3		⑤第二次世界大戦の開始	○	○		
		⑥第二次世界大戦の終結	○	○		
<b>【備考】</b>						
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						
<b>評価の方法</b>						
出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する						

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	3	
年組	2年3組文系		教科書(発行所)	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 結びつく世界	アジア諸地域の繁栄と日本	○	○	<p><b>学習の目標</b></p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。</p> <p><b>授業の進め方</b></p> <p>・地図や写真などを読みとる活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気づかせる。</p> <p>・19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p> <p>・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。</p> <p><b>学習の方法</b></p> <p>・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。</p> <p>・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。</p> <p><b>評価の観点</b></p> <p>・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。</p> <p>・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。</p> <p><b>評価の方法</b></p> <p>出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する</p>	
	5	第2章 近代・ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 アメリカ独立革命とフランス革命 19世紀前半のヨーロッパ 19世紀後半のヨーロッパ (中間考査)	○		○
6	第3章 明治維新と日本の立憲体制	19世紀のアメリカ大陸 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 中国の開港と日本の開国	○	○		
	第4章 帝国主義の展開とアジア	明治維新と諸改革 明治初期の対外関係 自由民権運動と立憲体制 条約改正と日清戦争 日本の産業革命と教育の普及 帝国主義と列強の展開 (期末考査)	○	○		
7	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響 第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障	○	○		
8・9	第6章 経済危機と第二次世界大戦	アジア・アフリカ地域の民族運動 大衆消費社会と市民生活の変容 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭	○	○		
9		日本の恐慌と満州事変 日中戦争と国内外の動き	○	○		
10	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	第二次世界大戦と太平洋戦争 新たな国際秩序と冷戦の始まり アジア諸地域の独立 占領下の日本と民主化	○	○		
11	第8章 冷戦と世界経済	占領政策の転換と日本の独立 集団防衛体制と核開発	○	○		
12		米ソ両大国と平和共存 (期末考査)	○	○		
12	第9章 グローバル化する世界	西ヨーロッパの経済復興 第三世界の連携と試練 55年体制の成立	○	○		
1		日本の高度経済成長 核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ 世界経済の転換	○	○		
2		アジア諸地域の経済発展と市場開放 冷戦の終結と国際情勢 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 地域紛争の激化	○	○		
3	第10章 現代の課題	国際社会のなかの日本 現代世界の諸課題	○	○		
<p><b>【備考】</b></p> <p>※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。</p>						

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2		
年組	2年3組理系		教科書(発行所)	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄 第2節 産業革命と市民革命	①歴史と私たち ②歴史の特質と資料 ①18世紀の東アジアの政治と国際秩序 ②18世紀の東アジアの経済と社会 ①国際商業の覇権争いと大西洋三角貿易 (中間考査) ②農業社会から工業社会へ—産業革命 ③アメリカ独立革命 ④フランス革命 ⑤イギリスに挑戦したナポレオン ⑥大西洋をこえて広がった革命	○	○	○	<b>学習の目標</b>  社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。	
5			○	○	○		
6	第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	①イギリスの繁栄 (期末考査)	○	○	○		
7			○	○	○		<b>授業の進め方</b>  ・地図や写真などを読みとる活動を通して、歴史が史料から成り立っていることに気づかせる。
7	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	世界分割と列強の対立 日露戦争とその影響 第一次世界大戦とロシア革命 国際平和と安全保障 アジア・アフリカ地域の民族運動 大衆消費社会と市民生活の変容	○	○	○		・19世紀後半から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。 ・戦争を防止し、平和で民主的な世界を実現することが重要な課題であることを認識させる。
8・9			○	○	○		
9	第6章 経済危機と第二次世界大戦	社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 世界恐慌の発生と各国の対応 ファシズムの台頭 日本の恐慌と満州事変 日中戦争と国内外の動き	○	○	○		
10	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	第二次世界大戦と太平洋戦争 新たな国際秩序と冷戦の始まり アジア諸地域の独立 占領下の日本と民主化	○	○	○		
11	第8章 冷戦と世界経済	占領政策の転換と日本の独立 集団防衛体制と核開発 米ソ両大国と平和共存 (期末考査)	○	○	○		
12			○	○	○	<b>学習の方法</b>  ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。	
12			○	○	○	<b>評価の観点</b>  ・知識・技能 歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。 ・思考力・判断力・表現力 現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。	
12		西ヨーロッパの経済復興 第三世界の連携と試練 55年体制の成立	○	○	○	<b>評価の方法</b>  出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する	
1		核戦争の恐怖から軍縮へ 冷戦構造のゆらぎ 世界経済の転換 アジア諸地域の経済発展と市場開放	○	○	○		
2	第9章 グローバル化する世界	冷戦の終結と国際情勢 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 地域紛争の激化	○	○	○		
3	第10章 現代の課題	国際社会のなかの日本 現代世界の諸課題	○	○	○		
【備考】							
※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3		
年組	3年1・2組		教科書(発行所)	高等学校 日本史探究(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	第1章 原始・古代の日本と東アジア	①日本列島に人々がやってきた	○	○	○	<b>学習の目標</b>	
	第1節 日本文化の黎明	②環境が変わり, 定住生活をはじめた	○	○	○		
5	第2節 ヤマト政権と律令国家の形成	③農耕をはじめてくらしが変わった	○	○	○	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ, 課題を追究したり解決したりする活動を通して, 広い視野に立ち, グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
		①列島にクニが現れた	○	○	○		
		②巨大古墳がつくられる	○	○	○		
		③ヤマト政権の支配が列島を覆う	○	○	○		
		④争乱のなかから国家が生まれる	○	○	○		
6	第3節 律令国家の変容	⑤強力な天皇が登場する	○	○	○	<b>授業の進め方</b>	
		⑥法律が人々のくらしを変える	○	○	○		
		⑦国内が不安定になり仏教に安定を求める	○	○	○		
7		⑧きびしい支配のなかで懸命に生きる	○	○	○	古代・中世・近世の日本の歴史を中心に授業を進めるが, 世界の歴史と関連させて総合的に考察する。 文献・絵画・実物教材などの資料を活用しながら, 歴史的な事象を理解する方法を身に付ける。	
7		③貴族による政治がおこなわれた	○	○	○	<b>学習の方法</b> ・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し, 自分で調べることで学習の理解を深める。 ・知識としての暗記だけでなく, 歴史的な事象の背景や影響について総合的に理解する。	
8・9	第2章 中世の日本と世界	④受領によって地方支配が再編された	○	○	○		
9	第1節 中世への転換	①院政をはじめた	○	○	○		
	第2節 鎌倉幕府の展開	②平清盛が政治権力をにぎった	○	○	○		
10	第3節 室町幕府の展開	③鎌倉に新たな武家政権が成立した	○	○	○		
		①鎌倉幕府の支配が広がる	○	○	○		
		②武士の土地支配が深まった	○	○	○		
11	第3節 室町幕府の展開	③農業が発達し, 銭の流通がすすんだ	○	○	○		
		④モンゴルの脅威がせまってきた	○	○	○		
		⑤新しい仏教の教えが人々をとらえた	○	○	○		
		①列島全体に動乱が続いた	○	○	○		
12	第3章 近世の日本と世界	②守護大名が台頭する	○	○	○		
		③東アジア世界と交流する	○	○	○		
		④商品の流通が活気を生んだ	○	○	○		
12	第1節 近世への転換	⑤団結して立ち上がる民衆	○	○	○	<b>評価の観点</b> ・知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について, 地理的条件や世界の歴史と関連付けながら理解するとともに, 諸資料から情報を活用する技能を身に付けている。 ・思考力・判断力・表現力 歴史的な事象の意義, 伝統と文化の特色などを, 現在とのつながりに着目して概念等を活用しながら多面的に考察したり, 構想したことを説明する力を身に付けている。 ・主体的に学習に取り組む態度 より良い社会の実現のため課題を主体的に解決しようとする態度を身に付けている。	
1	第2節 幕藩体制の確立	⑥現代までつながる文化が生まれた	○	○	○		
		④統制されながらも人々は宗教を必要とした	○	○	○		
2							<b>評価の方法</b> 出席・授業態度, 定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する
3							
3							

**【備考】**

※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	5	
年組	3年3・4組文系		教科書(発行所)	詳説日本史(山川出版社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	第1章 日本文化のあけぼの	文化の始まり	○	○	<p><b>学習の目標</b></p> <p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。</p>	
	第2章 古墳とヤマト政権	農耕社会の成立	○	○		
5	第3章 律令国家の形成	古墳文化の展開 飛鳥の朝廷	○	○		
	第4章 貴族政治の展開	律令国家への道 平城京の時代 (中間考査)	○	○		
6	第5章 院政と武士の躍進	律令国家の文化	○	○		
	第6章 武家政権の成立	律令国家の変容 摂関政治 国風文化	○	○		
7		地方政治の展開と武士 院政の始まり	○	○		
		院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立 武士の社会 (期末考査)	○	○		
7	<p>第7章 武家社会の成長</p> <p>第8章 近世の幕明け</p> <p>第9章 幕藩体制の成立と展開</p> <p>第10章 幕藩体制の動揺</p> <p>第11章 近世から近代へ</p> <p>第12章 近代国家の成立</p> <p>第13章 近代国家の展開</p>	モンゴル襲来と幕府の衰退	○	○		<p>古代・中世・近世の日本の歴史を中心に授業を進めるが、世界の歴史と関連させて総合的に考察する。</p> <p>文献・絵画・実物教材などの資料を活用しながら、歴史的事象を理解する方法を身に付ける。</p> <p><b>学習の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で興味を持ったことや分からなかったことを記録し、自分で調べることで学習の理解を深める。</li> <li>・知識としての暗記だけでなく、歴史的事象の背景や影響について総合的に理解する。</li> </ul>
8・9		鎌倉文化	○	○		
9		室町幕府の成立	○	○		
		幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化	○	○		
10		戦国大名の登場	○	○		
		織豊政権	○	○		
11		桃山文化	○	○		
		幕藩体制の成立	○	○		
12		幕藩社会の構造	○	○		
		幕政の安定	○	○		
12		経済の発展	○	○		
		元禄文化	○	○		
12	幕政の改革	○	○			
	宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道	○	○			
12	化政文化 開国と幕末の動乱	○	○			
	幕府の滅亡と新政府の発足 明治維新と富国強兵	○	○			
12	立憲国家の成立 日清・日露戦争と国際関係	○	○			
	(期末考査)	○	○			
12	<p>第15章 恐慌と第二次世界大戦</p> <p>第16章 占領下の日本</p>	第一次世界大戦と日本 ワシントン体制	○	○	<p><b>知識・技能</b></p> <p>歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、まとめたりしている。また、歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解している。</p> <p>・思考力・判断力・表現力</p> <p>現代の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>・主体的に学習に取り組む態度</p> <p>世界の歴史に対する関心と課題意識を高める。</p>	
1		近代産業の発展	○	○		
2		近代文化の発達	○	○		
		市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代	○	○		
3		軍部の台頭	○	○		
		第二次世界大戦 占領と改革 (学年末考査)	○	○		
<p><b>評価の観点</b></p> <p>出席・授業態度、定期考査 課題・ノート等の提出物 上記の内容により評価する</p>						
<p><b>【備考】</b></p> <p>※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。</p>						

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3	
年組	3年2組・4組理系		教科書(発行所)	地理探究(二宮書店)		
月	学習内容		学習の具体的な内容	評価の観点		項目
			知	思	態	
4 5 6 7	第1章 自然環境 ①地形 ②気候と生態系 ③世界各地の自然と生活 ④日本の自然環境と防災 ⑤地球環境問題 第2章 資源と産業 ①農林水産業 ②資源・エネルギー	1 世界の地形 2 プレート運動と影響	○	○	<b>学習の目標</b> 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	
		3 地震と火山 4 造山運動 5 河川がつくる地形	○	○		
		6 海岸地形 7 ささまざまな地形 1 水の循環	○	○		
		2 海洋循環 3 大気の大循環 4 気候の地域性	○	○		
		5 植生と土壌 1 世界の気候 2 熱帯 (中間考査)	○	○		
		3 乾燥帯 4 温帯 5 亜寒帯と寒帯 1 日本の地形	○	○		
		2 日本の気候 3 日本の防災 1 環境問題大観	○	○		
6	①農林水産業 ②資源・エネルギー	1 農業の諸条件 2 農業の変化 3 グローバル化	○	○	<b>授業の進め方</b> 教科書、資料集を読み込み、ワークブックや要点ノートにまとめ、演習問題を通して知識の定着を図る。	
		4 林業 5 水産業 6 食料問題 1 社会の発展と資源	○	○		
7		2 鉱産資源 3 エネルギー資源と課題 4 電力の利用 (期末考査)	○	○	また、作図や資料から当該地域の特色や課題を読み取り、解決の方向性や将来の在り方を考える。	
7	③工業	1 社会の発展と工業 2 工業立地 3 工業地域	○	○	<b>学習の方法</b> 予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。授業時や復習時には、ノートだけでなく資料集も参考に理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。また、地図帳を有効に活用し、地球の中での位置がイメージできるようにしておく。 地形や気候、そこに住む人々の歴史や生活等に注目して現代社会における諸課題を捉えてほしい。	
8・9	④第3次産業	4 自動車工業 5 国際分業 6 グローバル化 1 サービス経済	○	○		
9	第3章 人・モノ・金 ①交通・通信	1 交通 2 通信 1 貿易 2 貿易の課題	○	○		
	②貿易・観光	3 資金の流れ 4 観光と課題 1 人口推移と分布	○	○		
10	第4章 人口、村落・都市 ①人口	2 人口構成 3 人口移動 4 人口問題	○	○		
	②村落・都市	1 集落の成り立ち 2 都市の成り立ち 3 都市・居住問題	○	○		
11	第5章 文化と国家 ①生活文化	1 生活文化 2 衣服 3 食生活 4 住居	○	○		
	②国家とその領域	5 言語 6 宗教 1 国家と領域 2 民族・領土問題	○	○		
12	第1章 地域区分 ①中国	3 日本の領土問題 4 海洋国家日本 5 国際連合	○	○		
	②朝鮮半島	1 改革開放 2 人口 3 農業の地域性	○	○		
12	③東南アジア	4 産業と生活 5 経済成長と課題 1 朝鮮半島	○	○		
	④南アジア	2 文化と経済発展 3 国際関係 1 多民族文化	○	○		
12	⑤西アジア・中央アジア	2 自然環境と農業 3 工業化 4 地域内外の経済	○	○		
	⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	1 自然環境と人口 2 住民と文化 3 農業 4 産業	○	○		
12	⑦ヨーロッパ	1 自然環境 2 民族 3 資源開発 4 地域紛争	○	○	<b>評価の観点</b> ・知識・技能 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・思考・判断・表現 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して系統地理的、地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。	
	⑧ロシア	1 自然環境と民族	○	○		
1	⑨アングロアメリカ	2 産業の変化 3 世界の結びつき 1 自然環境	○	○		
	⑩ラテンアメリカ	2 多文化社会 3 産業 4 世界の結びつき	○	○		
2	⑪オーストラリア ⑫ニュージーランド	1 自然環境 2 民族と都市 3 鉱工業 4 政治経済	○	○		
	これからの日本の国土像	1 農・工業 2 多文化主義 3 世界との結びつき 1 ニュージーランド	○	○		
3		1 2050年の姿 2 テーマ学習 3 国土像の探究	○	○	<b>評価の方法</b> ・定期考査の得点 ・小テストの得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況	
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2	
年組	2年1・2組		教科書(発行所)	高等学校 新公共(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自立 ③多様性と共通性 ④伝統文化 ⑤自立した主体をめざして	○	○	○	<b>学習の目標</b>
	2章 人間としてのあり方生き方 3章 公共的空間での基本的原理	①人間と社会のあり方についての見方・考え方 ①人間の尊厳 ②民主主義と法の支配 (中間考査) ③自由・権利と責任・義務 ④日本国憲法	○	○	○	
5	2編1章 法的な主体となる私たち	①私たちと法 ②法と基本的人権 ③④自由、平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全に生きる権利 ⑥法をよりよいものに	○	○	○	<b>授業の進め方</b>
	1 法や規範の意義と役割 2 契約と消費者の権利・責任 3 司法参加の意義	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任 ①裁判所と司法 ②国民の司法参加 (期末考査)	○	○	○	
6	2章 政治的な主体となる私たち	①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政 ⑥地方自治と住民福祉	○	○	○	<b>学習の方法</b>
	4 政治参加と公正な世論形成	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制 ③核兵器と国際平和 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題 ③国際社会における日本	○	○	○	
8・9	5 国際社会と国家主権	①私たちと経済	○	○	○	<b>評価の観点</b>
	6 日本の安全保障と防衛	②労働者と権利 ③労働環境と課題 ①日本経済 ②技術革新の進展 ③現代企業 ④中小企業 ⑤日本の農林水産業 ①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ ③経済発展と環境 (期末考査)	○	○	○	
9	7 国際社会の変化と日本の役割	④国民所得と生活 ⑤経済成長と国民の福祉 ①金融の意義 ②金融のいま	○	○	○	<b>評価の方法</b>
	3章 経済的な主体となる私たち	①財政のしくみと租税 ②日本財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障 ①国際分業 ②国際収支と国際経済 ③外国為替相場 ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会の貧困や格差 ⑦環境問題 (学年末考査) ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会	○	○	○	
10	8 雇用と労働問題	④インターネット投票 ⑤フェアトレード 1年間の振り返り	○	○	○	【備考】 ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。
	9 社会の変化と職業観		○	○	○	
11	11 金融のはたらき		○	○	○	
	12 財政の役割と社会保障		○	○	○	
12	13 経済のグローバル化		○	○	○	
	3編 ケーススタディ		○	○	○	

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	公共	単位数	2		
年組	2年3組		教科書(発行所)	高等学校 公共(第一学習社)			
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目	
			知	思	態		
4	1編1章 公共的空間と私たち	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④キャリア形成と自己実現 ⑤伝統や文化とのかかわり	○	○	○	<b>学習の目標</b>  人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。	
5	2章 人間としてのあり方生き方	①人間と社会のあり方 ②環境保護 ③生命倫理 (中間考査)	○	○	○		
6	3章 公共的空間での基本的原理	①人間の尊厳と平等 ②個人の尊重 ③民主政治の基本的原理 ④法の支配 ⑤自由・権利と責任・責務 ⑥世界の主な政治体制 ⑦日本国憲法に生きる基本的原理	○	○	○		
7	2編1章 法的な主体となる私たち 1 法や規範の意義と役割	①私たちの生活と法 ②法と基本的人権 ③自由、平等に生きる権利と法 ④法をよりよく変えていくために (期末考査)	○	○	○		
							<b>授業の進め方</b>  教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。
7	2 契約と消費者の権利・責任	①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任	○	○	○		
8・9	3 司法参加の意義 2章 政治的な主体となる私たち 4 政治参加と公正な世論形成	①裁判所と人権保障 ①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成 ③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉	○	○	○		
9	5 国際社会と国家主権	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題	○	○	○		
10	6 日本の安全保障と防衛 7 国際社会の変化と日本の役割	①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本	○	○	○		
11	3章 経済的な主体となる私たち 8 雇用と労働問題 9 社会の変化と職業観	①私たちと経済 ②労働者の権利と労働問題 ①技術革新の進展と産業構造の変化 ②企業の活動 ③農林水産業の現状とこれから	○	○	○		
12	10 市場経済の機能と限界	①市場経済と経済運営 ②市場経済のしくみ (期末考査)	○	○	○		
12	11 金融のはたらき 12 財政の役割と社会保障	③経済発展と環境保全 ④経済成長と国民福祉 ①金融の意義や役割 ①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉	○	○	○	・知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から論理的主体などとして活動するために必要な情報を適切かつ効果的に調査する力を養う。 ・思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現に向け、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を身に付ける。	
1	13 経済のグローバル化	①国際分業と国際貿易体制 ②国際収支と為替相場 ③経済のグローバル化と日本 ④地域的統合の動き ⑤国際社会における貧困や格差 ⑥地球環境問題 ⑦資源・エネルギー問題 ⑧国際社会のこれから (学年末考査)	○	○	○		
2			○	○	○		
3	3編 ケーススタディ	①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③生命倫理 ④情報 ⑤国際社会の課題	○	○	○	<b>評価の方法</b>  ・定期考査の得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況	
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。							

# 令和6年度 シラバス

愛媛県立南宇和高等学校

教科	公民	科目	政治経済	単位数	2	
年組	3年2、3、4組文系		教科書(発行所)	高等学校 政治・経済(第一学習社)		
月	学習内容	学習の具体的な内容	評価の観点			項目
			知	思	態	
4 5 6 7	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題	①政治と法の意義と機能	○	○		<b>学習の目標</b> 社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	第1章 現代日本の政治・経済	②法の支配と立憲主義	○			
	第1節 日本国憲法と現代政治のあり方	③基本的人権の保障と日本国憲法	○	○		
		④現代社会における新しい人権	○		○	
		⑤権利と義務との関係	○	○		
		⑥議会制民主主義と世界の政治体制	○	○		
		⑦国会の組織と立法	○		○	
	第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	⑧内閣の機構と行政	○	○		
		⑨裁判所の機能と司法制度	○		○	<b>授業の進め方</b> 教科書内容の読み込み、問題演習を中心に知識の定着を図る。グループワークでは自身の考えを述べるなど主体的・協同的な参加が望まれる。今後直面する諸課題を解決へと導く手立てとしてほしい。
	第3節 市場経済の機能と限界	①地方自治制度と住民の権利	○	○		
		②政党政治と選挙	○	○		<b>学習の方法</b> 予習として、教科書を読み疑問点を明らかにしておく。次に資料や参考書を読み理解を深め、問題演習を通して知識の定着を図る。 政治、経済、国際関係などの本質や動向を把握し自身の意見を述べるができるように多様な文献に目を通してほしい。
		①経済活動と市場	○	○		
		②経済主体と経済循環	○	○		
7		③国民経済の大きさと経済成長	○		○	
8・9		④物価と景気変動	○	○		
9	第4節 持続可能な財政および租税のあり方	⑤市場の失敗と公害・消費者問題	○	○		
	第5節 金融を通じた経済活動の活性化	①財政のしくみと租税の意義	○		○	
	第6節 経済活動と福祉の向上	①金融のしくみとはたらき	○	○		
		①日本経済の変化と中小企業・農業問題	○	○		<b>評価の観点</b> ・知識・技能 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題を解決探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解している。 ・思考力・判断力・表現力 国家及び社会の形成者として必要な判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる課題について説明することができる。 ・主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
10	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題	②労使関係と労働問題	○	○		
	第1章 現代の国際政治・経済	③社会保障制度と福祉のあり方	○	○		
	第1節 国際法の果たす役割	①国際社会の変遷	○		○	
		②国際法の意義	○	○		
		③国際機構の役割	○	○		
		④国際紛争と軍縮への取り組み	○	○		
11	第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割	①日本の安全保障と国際貢献	○		○	
	第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質	①貿易の現状と意義	○	○		
		②国民経済と国際収支	○	○		<b>評価の方法</b> ・定期考査の得点 ・小テストの得点 ・授業への参加態度 ・課題の提出状況
12	第4節 国際経済において求められる日本の役割	④国際協調と国際経済機関の役割	○		○	
	第2章 国際社会の諸課題の探究	①国際経済における日本の地位と国際協力	○	○		
1		1 グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容	○		○	
		2 地球環境と資源・エネルギー問題	○	○		
		3 国際経済格差の是正と国際協力	○	○		
		4 イノベーションと成長市場	○	○		
2		5 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取り組み	○	○		
3						
<b>【備考】</b> ※ 評価の観点は愛媛県立学校評価の手引(愛媛県教育委員会)による。						